

議題（2）

（説明資料）

北九州市の戦前の歴史

北九州市の戦前の歴史 (北九州地域の近代史)

2017. 1. 18
北九州市

戦争と北九州の記憶

- 北九州地域は関門海峡の九州側かつ東アジア各国とも近い地理的な重要性から、古くより係争の舞台となった。例) 藤原広嗣の乱、壇ノ浦の合戦、門司城合戦、第二次長州征伐.....。

小倉戦争

- 慶応2年（1866）年、小倉戦争に敗れ藩は城を自焼、市街地は荒廃した。（丙寅八月二日小倉落城遠望之図）



地域の近現代と国防との関わり

- 下関要塞地帯と十二師団設置
...幕末期の内戦で荒廃した北九州地域は、その地理的重要性から要塞地帯に指定、陸軍師団が配置された。
- 小倉陸軍造兵廠の誘致から門司・八幡大空襲
...大正期の軍縮政策で、師団は久留米に移転、跡地は軍需工場が誘致された。地域は重要拠点が多く、空襲被害を何度も受け、原子爆弾投下候補地となった。
- 戦後の北九州と平和の取り組み
...戦後八幡・門司・若松の三市が戦災復興都市に指定。学校等では様々な平和の取り組みを進めている。

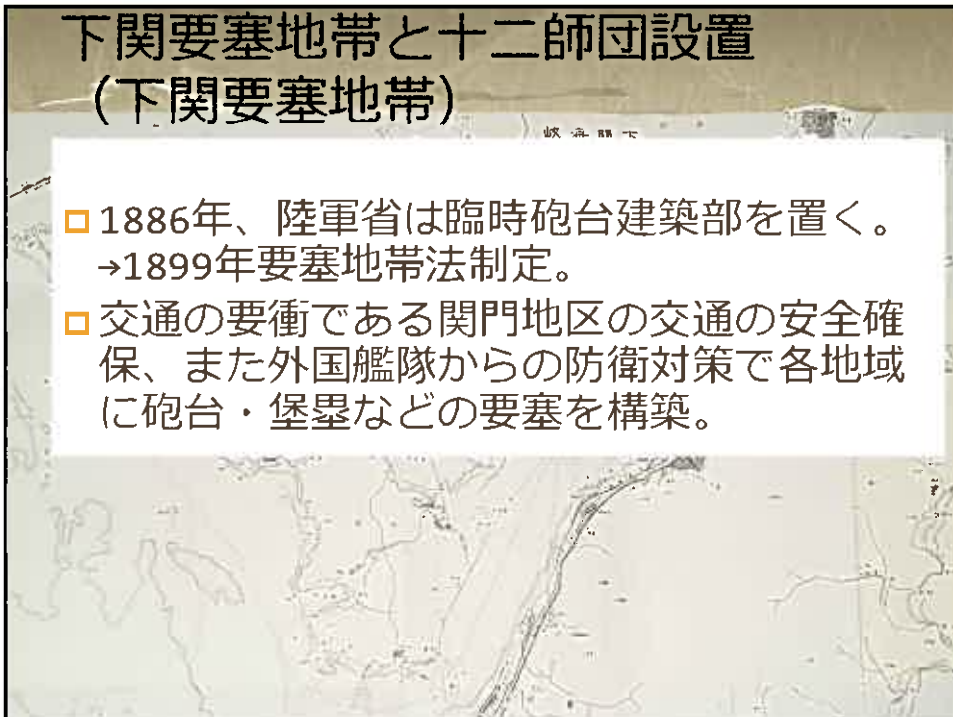
下関要塞地帯と十二師団設置 (西海道鎮台)

- ▶ 明治維新時、小倉の地は長州藩の直轄地。
→ 明治2年に日田県（政府直轄地……この頃まだ他地域は藩として独立）、明治4年廃藩置県により、小倉県として独立。
- ▶ 廃藩置県まで軍事拠点である鎮台が設置。



下関要塞地帯と十二師団設置 (下関要塞地帯)

- 1886年、陸軍省は臨時砲台建築部を置く。
→ 1899年要塞地帯法制定。
- 交通の要衝である関門地区の交通の安全確保、また外国艦隊からの防衛対策で各地域に砲台・堡壘などの要塞を構築。



下関要塞地帯と十二師団設置
(下関要塞地帯・高蔵山堡壘)



下関要塞地帯と十二師団設置
(下関要塞地帯・手向山砲台)



下関要塞地帯と十二師団設置
(下関要塞地帯・手向山砲台)



下関要塞地帯と十二師団設置
(下関要塞地帯・手向山砲台)



下関要塞地帯と十二師団設置 (十二師団の小倉設置)

- 1898年、小倉（小倉城址及び城野・北方の自衛隊基地に相当）に本拠を置く。
- 第一次世界大戦後の軍縮に伴い1925年久留米に移転されるまで、市街中心部（旧小倉城）に所在。



下関要塞地帯と十二師団設置 (十二師団の小倉設置)

- 森鷗外.....1899年十二師団に赴任。福岡日日新聞に投稿した「我をして九州の富人たらしめば」は、炭鉱主の散財を戒めたものとして知られる。



下関要塞地帯と十二師団設置
(十二師団・森鷗外旧居)



下関要塞地帯と十二師団設置
(十二師団・旧小倉城)



下関要塞地帯と十二師団設置 (十二師団・軍馬忠霊碑)



下関要塞地帯と十二師団設置 (十二師団・軍馬水飲み場跡)

• 港町・門司からは日清・日露期以降、多くの軍馬が兵士とともに出征。門司にあった水飲み場を移設保存するとともに、小倉には慰霊碑が造られる。



下関要塞地帯と十二師団設置 (十二師団・北方の資料館)



下関要塞地帯と十二師団設置 (十二師団と地域との関わり)

- 「湖月堂」の名の由来...1901年に十二師団井上光中将が源氏物語の注釈書である「湖月抄」から命名。



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲 (小倉陸軍造兵廠)

•小倉市は、十二師団拠点跡地に関東大震災で被害を受けた陸軍造兵廠の誘致を行った。1932年から移転作業が始まる。



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲 (小倉陸軍造兵廠の誘致)

•小倉城そばの約58haに及ぶ敷地に戦車や高射砲の工場、そして数100mに及ぶ地下道などが建設された。



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司・八幡大空襲
(小倉陸軍造兵廠)



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲
(小倉陸軍造兵廠)



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲
(小倉陸軍造兵廠・旧防空監視哨)



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲
(小倉陸軍造兵廠・給水塔の遺構)



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲
(小倉陸軍造兵廠・造兵廠跡石碑)



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲
(小倉陸軍造兵廠・曾根毒瓦斯工場)



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲
(若松・石峰山高射砲陣地施設か)



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲
(小倉・旧かねやす百貨店屋上)

- 防空監視哨... 目視により空襲を察知する目的で、比較的高さのある建物に設置。



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲 (八幡製鐵所)

□ 製鐵所の八幡誘致

国内候補地.....災害が少なく、地盤が堅固で原材料が豊富にあるところが候補に。

坂（広島）、柳ヶ浦（北九州門司）、八幡

→1897（明治30）年、筑豊炭田を控え、整備され（つつある）若松港を持つ八幡が選ばれ、1901年に作業開始。

小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲 (八幡製鐵所)

□ 八幡製鐵所の拡張と都市形成

- ・ 製鐵所の生産拡大に応じて、数度拡張が行われ、社宅街と製鐵所入り口近くに商店街が形成、周辺が市街地化。（初代本事務所をはじめとする関連施設群が2015年UNESCO世界文化遺産に登録）



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲 (門司と八幡の空襲)

- 北九州市の空襲（1944.6.16）... 日本初の本土空襲。北九州全域が被害を受ける。
- 門司大空襲（1945.6.29）... 多くの死傷者ができるとともに、日本銀行西部支店等、近代建築の多くが焼失



門司港・錦町から港町方向

小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲 (門司と八幡の空襲)

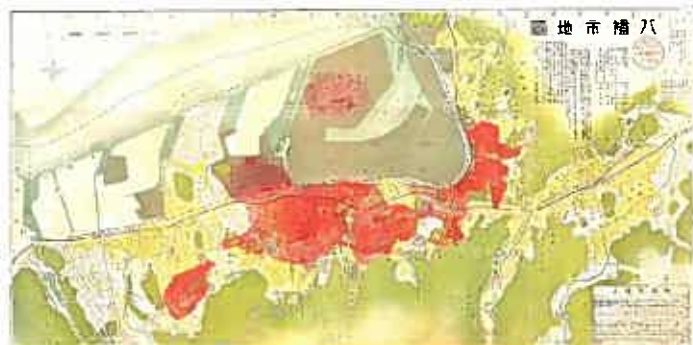
- 関門海峡は度重なる爆撃とともに1945年3月より順次機雷で封鎖された。
- 艦船に多くの被害→港湾施設の接収とともに戦後復興にも大きく影を落とす。



下関・細江町付近

小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲
(門司と八幡の空襲)

- 八幡大空襲（1945.8.8）...小伊藤山の防空壕では約300人の市民が犠牲に。これまでの空襲から累計して60%の市街地が焼失、死傷者は約2500人にのぼる。



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司・八幡大空襲
(門司と八幡の空襲)



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲 (門司と八幡の空襲)



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲 (北九州市の空襲被害)

年月日	都市	死者	傷者	全焼家屋	半焼家屋	全壊家屋	半壊家屋	被災者
昭和19年6月16日 英本土初の 本土空襲	門司	33	25			25	104	426
	小倉	54	126			79	240	
	戸畑	52	43			22	55	318
	若松	6	20		4			
	八幡	129	152	107			125	928
小計		314	366	107	4	126	524	1,732
昭和19年7月6日	八幡			2			4	24
	小倉	3	2	1	2			
昭和19年8月20日	戸畑	29	48			16	50	300
	八幡	136	224	125			545	2,880
小計		168	266	126	2	16	595	2,980
昭和20年3月5日	門司	3	9			1		
昭和20年3月27日	門司			67	8			325
	小倉	14	8	8	6	1		
小計		14	8	75	14	1	0	325

小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲 (北九州市の空襲被害)

年月日	都市	死者	傷者	全焼家屋	半焼家屋	全壊家屋	半壊家屋	被災者
昭和20年5月27日	門司			67	8			323
	小倉	14	8	8	0	1		
小計		14	8	75	8	1	0	323
昭和20年6月11日	門司	14	48			27	143	132
昭和20年6月17日	門司		0			1	202	50
昭和20年6月18日	若松				1			
昭和20年6月19日	門司	85	82	5,615	89			16,180
昭和20年7月2日	門司		28	94	27			308
昭和20年7月16日	門司		2					0
昭和20年7月31日	門司	6	7			3	6	53
昭和20年8月1日	小倉	1	7	11	0			
	戸畑	27	17			318	17	1,600
	若松	85	127		1,173			4,000
	八幡	1,785	817	13,735			93	53,476
小計		1,879	794	13,807	1,173	316	110	59,776
合計		2,452	1,003	17,547	1,320	403	1,508	71,752

【日本都市被災地図より】

小倉陸軍造兵廠の誘致から門司・八幡大空襲 (原子爆弾投下目標地・小倉)

- 1945年5月時点における原子爆弾の投下候補地は、京都・広島・横浜・小倉・新潟など。
- 小倉地域は近隣に起伏の大きな地形がなく、これまでの空襲被害も少なかったことから、原子爆弾投下目標地としての最終候補となる。



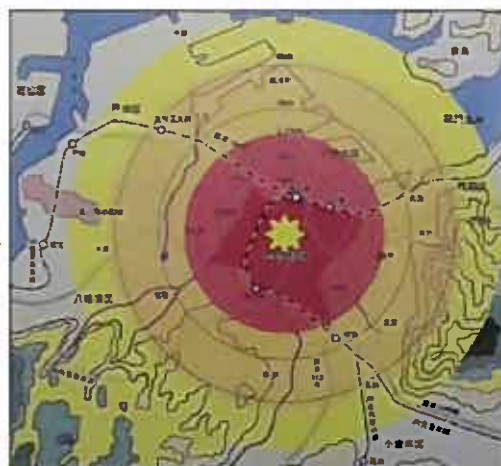
小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲 (原子爆弾投下目標地・小倉)

- 1945年8月9日にマリアナ諸島から出発したB29は、午前9時頃に小倉に到着。視界不良のため三度巡回するも、投下できず、第二候補地の長崎に向かう。



小倉陸軍造兵廠の誘致から門司～八幡大空襲 (原子爆弾投下目標地・小倉)

- 原子爆弾が小倉陸軍造兵廠敷地に投下された場合、直接の死者は5万7000人、2万戸以上の家屋が全焼し、隣接する八幡や戸畑にも大きな被害が及んだと想定されている。



戦後の北九州
(平和復興祈念像)



戦後の北九州
(「復興平和記念」の碑文)



戦後の北九州 (戦後復興)

- 300名以上の犠牲者を出した小伊藤山防空壕跡には、ロータリーを中心とした戦後復興計画に基づいた街路整備がなされ、記念碑が建てられた。
- 1946年に公布された特別都市計画法に基づき、門司市・八幡市・若松市が戦災復興都市に指定。



八幡駅前・西本町

戦後の北九州 (戦後復興)

- 戦後傾斜生産政策に基づき、北九州五市の復興が急速に行われる。
- 米軍による接收などもあり、建物が不足する中で、焼け残った多くの施設が様々な用途に転用された。



門司港・鎮西橋付近

戦後の北九州 (若松・軍艦防波堤(駆逐艦「柳」))

- 「軍艦防波堤」
戦後復興期の資材不足の中で、かつて駆逐艦として使用されていた「涼月」「冬月」「柳」の3隻を若松港の防波堤に転用。現在は周辺埋立によって響灘人工島と陸続きに。



戦後の北九州 (関門海峡機雷撤去)

- 関門海峡に投下された機雷は、21世紀の現在においても時折発見され、逐次爆破除去が行われている。
- 門司の西海岸地区は戦後米軍の接收を受け、1・2号岸壁の接收解除は1972（昭和47）年であった。



戦後の北九州 (米軍施設の返還)

- 旧門司税関
一号上屋...米
軍接收施設、
1972年返還。



平和の取り組み

- 家族史としての
8月9日...
いなかったか
もしれない自分。



自宅茶所

平和の取り組み



平和の取り組み (北九州市非核平和都市宣言)



平和の取り組み (戦時資料展示コーナー)

- 現在の小倉には、埋蔵文化財センター（旧考古博物館）に併設して戦時資料展示コーナーが設置されている。



平和の取り組み (原爆犠牲者慰霊平和祈念碑)



平和の取り組み （「嘉代子桜・親子桜」の植樹）

- 平和の願いが込められた「嘉代子桜・親子桜」の植樹。
- 市立小学校、勝山公園等に植樹。
- 市立中学校にも植樹（平成28年度完了予定）。



平和の取り組み （長崎市平和派遣事業）

- 親子で平和を考えるきっかけとするため、8月9日に、親子300人を長崎市へ派遣。
- 平和祈念式典への参列、原爆資料館や「嘉代子桜」の縁のある城山小学校を見学。



▲ 城山小学校での被爆体験講話

平和の取り組み (青少年ピースフォーラム派遣事業)

- 長崎へ投下された原爆被害の実情や平和の尊さを学ぶため長崎市が開催する「青少年ピースフォーラム」に本市小中高校生（約20人）を派遣。
- 平和祈念式典への参列や他都市の参加者との意見交換。



平和の取り組み (後世に語り継ぐ北九州市民の戦争体験の発行等)

- 市民から寄せられた戦争体験談をまとめた冊子及び市民が体験を語るDVDを作成。
- 冊子は無料で配布、DVDは市民センター等で貸出。



平和の取り組み (平和に関する学習指導)

- 小中学校での年間を通じた活動
7月を「平和に関する学習指導月間」と位置付け、
全市で重点化を図る。

(指導の例)

- 国語、社会科における教育課程に基づく指導
 - ・戦争を題材にした文学作品を読む
 - ・戦争に関する資料を集めたり、調べる 等
- 指導月間での指導
 - ・外部講師を招いての講話
 - ・DVD等の視聴
 - ・折鶴製作 等